不屈な第二の三池へ
守る会全遞村上支部の活動

三池を守る会の活動はいま全国各地でねばりづよい活動がつづけられている。われわれは、いま会社からかけられている差別攻撃に屈せず、つよい抵抗を組みあげているが、全国各地の仲間たちに感謝し手をとり合ってたたかいぬく決意をあらたにしている。

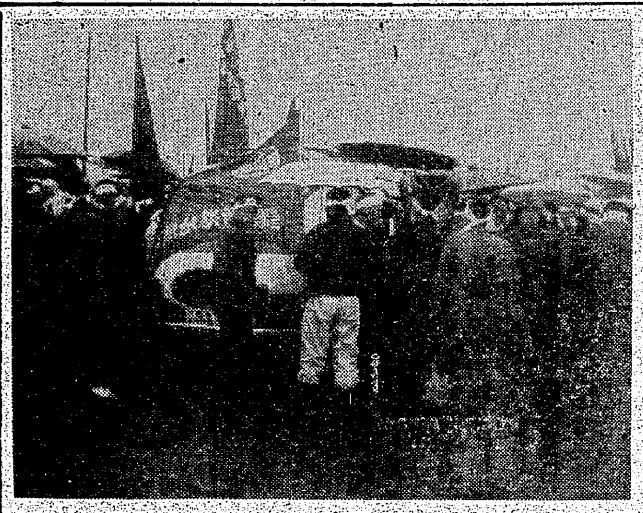
つぎに紹介するのは三池を守る会の一つ、新潟県の全遞村上支部三池を守る会の活動状況である。

ここは三十五年二月に結成、ざる二月十二日、こんご活動をさらに発展させるため第一回会議がもたれたが、毎月三十円の会費（二十円はカンパとして情勢に応じて運動をおこし、激励文、寄せ書などを送り、相互の交流をふかめ、逆オルグを迎える、などを当面の方針として決定した。

支部では三池について学習し、三池の闘いを自分たちの闘いとすることとし「去るも地獄、残るも地獄」ということは、われわれの職場でもすでに考えられることであり、こんご予想される首切り、労働強化の弾圧も、全労働者にとっては同じ一つの敵であることを、三池を守る学習の中から学びとろうと、いまある会への参加を積極的によびかけている。

三池を守ることから、われわれの職場を、不屈の魂をもった第二の三池へ発展させようと、こんど新たな決意をもって、会の運営がはかられることとなった。

そして何よりも、三池労組自身のこんごの活躍、組織強化を心からのぞんでいることがつたえられてきた。



挑発をかける会社の宣伝車（新務社宅で）

女子組合員が活ぱつに質問
中ソ訪問団から第一報

二月十八日羽田発午前十時三十分、午後四時十五分には小雨降る香港（九竜）に到着しました。香港は日本の五月ごろの気候です。十九日、香港から中国に入りましたが、国境深訓で資本主義国と社会主義国の相異をいやというほど感じました。それは、英領下では官憲が威張っているのに、中国に一歩踏み入れたら警備の民兵が笑顔で握手をもとめてきました。これこそ実質的な主権者の相異のあらわれと思います。

深訓で、中国炭鉱工会首席代理の李春明氏の出迎えをうけ広州に向いました。広州では人民公社ならびに毛首席が解放前、農民幹部教育をおこなった農民講習所跡を訪ね、行動の重大さと同時に、学習の必要性を感じたしだいです。

驚いたドラや太鼓での出迎え

二十一日広州発、武漢へ飛行機で約三時間。歩廊では二・七闘争（一九二三年二月七日）中国革命の基礎ともいうべき大闘争の歴史を、当時の鉄道労働者で幹部をしていた頭士（ママ）という七十五歳の老人から当時の模様を学びました。当時の中国労働者が笑、米や軍閥といかに闘ったか、またこの闘いはその時点では完全な勝利ではなかったが、中国全労働者におよぼした影響を考えるとき、三池の闘いの意義をさらに深くかみしめてみる必要を感じます。

二十二日、機械工業や建設、生産とめざましく発展する中国を見せてもらいましたが、とくに住宅の建設はめざましい限りです。また歩昌の第一紡績では、正門から講堂までドラや太鼓で迎えられたのにはドギモをぬかれましたが、それと同様に、女子組合員が質問も活発におこない、大きな関心をよせているのには感激したしだいです。

浸透している三池の闘い

私たち三名は微力ですが全力をあげて説明していますが、三池の闘いが以外に深く浸透しているのには驚くと同時に、資本主義下で闘う労働者は闘いのたびごとに一喜一憂することなく、一つひとつの闘いを反省し、それを基礎としてつぎの闘いをいかに有利に闘うかそれが労働者の幸福への一歩々々と近ずくものであると、いまさら強くかみしめているしだいです。

三池の同志の皆さん、私たち三名は元気で報告し、訴えると同時に勉強していますが、いまころ三池では組織対策など大変なことだと思います。

さきごろ三池を訪れた中国総工会李副主席はつぎのようにいわれました。

分裂は資本家が行なうものである。労働者が労働者を裏切ることは、自分を裏切ることである。中国にも第二組合ができたが、ごらんなさい今はありません。それは、第二組合が正しくなかったからです。三池の皆さん、自信をもって正しい労働者の道を歩きなさい。中国は全力をあげて支援します。

と、広州でしみじみと激励してくれました。

〝奉天〟がんばれ
主婦たちが店の手伝い

地域ではいまお互いが助け合い手をとり合って困難をのりこえ、会社の攻撃に抵抗をつづけているが停年退職をした一組合員に主婦たちが暖い手をさしのべ、助け合っている話がある。

織田伝治さんは元本所の組合員として、三池闘争にともにスクラムを組んできた仲間である。職場は水道課だった。

一昨年の十一月ごろ、会社が希望退職を募っていたときに、課長から退職金がこれだけあるがどうかと手紙を受けたこともあるがこれをはねつけて戦列に入った人である。職場にあっても積極的に組合活動に協力していた。また、奥さんのフミエさんも地域では主婦会の役員として活躍し、会社の弾圧がはげしかった脱落協結成にも進んで活動した人である。

闘争に入って二カ月後に停年となり退職、今は息子の衛企さんが同じ本所支部の電気で父親の分まで働いている。

失業保険が切れ何かやらなければ生活も脅かされるのでいろいろ思い立った。一時は屋台でもと手を出したが、元来体がそう頑丈でないため諦めた。

この間、地域の組合員、主婦も自分のことのように心配していろいろ奔走してくれ、このほど、上官町の宇宙館前のパチンコ屋の横に〝ぎょうざ〟店をひらいたのである。

屋号も「奉天」として第二の人生の出発をしたが、二月二十五日に開店するまで、地域の主婦たちが店の掃除から飾りつけまで応援にかけつけてくれたし、また開店後も馴れるまでは入れ替り立ち替り自分たちもぎょうざ作りまでして応援してくれた。

開店後まだ日が浅いが、話をきいて富浦や本所の組合員も近所を通ると必ずよってくれ激励している。去る七日の決起大会でも、帰りに主婦たちが顔をみせてくれたという。

こうしてみんなが織田さんに暖い支援をおくっている。

フミエさんの話　忙がしいときはいつでも電話してくれと地域の人がいってくれます。今く頭が下がるばかりです。いつまでもあまえてはいけないと思い断ってもきてくれます、ほんとにお礼の申しようもありません。

織田さん（左）と応援する主婦

あれから一年（13）
非常事態を宣言
脱落委員ら中央委開催を請願

五十六名が出席し、職業分裂屋三田村の教育をうけて二月二十六日会主義国の相異をいやというほど感じました。それは、英領下では官憲が威張っているのに、中国に一歩踏み入れたら警備の民兵が笑顔で握手をもとめてきました。これこそ実質的な主権者の相異のあらわれと思います。

深訓で、中国炭鉱工会首席代理の李春明氏の出迎えをうけ広州に向いました。広州では人民公社ならびに毛首席が解放前、農民幹部教育をおこなった農民講習所跡を訪ね、行動の重大さと同時に、学習の必要性を感じたしだいです。

驚いたドラや太鼓での出迎え

二十一日広州発、武漢へ飛行機で約三時間。歩廊では二・七闘争（一九二三年二月七日）中国革命の基礎ともいうべき大闘争の歴史を、当時の鉄道労働者で幹部をしていた頭士（ママ）という七十五歳の老人から当時の模様を学びました。当時の中国労働者が笑、米や軍閥といかに闘ったか、またこの闘いはその時点では完全な勝利ではなかったが、中国全労働者におよぼした影響を考えるとき、三池の闘いの意義をさらに深くかみしめてみる必要を感じます。

二十二日、機械工業や建設、生産とめざましく発展する中国を見せてもらいましたが、とくに住宅の建設はめざましい限りです。また歩昌の第一紡績では、正門から講堂までドラや太鼓で迎えられたのにはドギモをぬかれましたが、それと同様に、女子組合員が質問も活発におこない、大きな関心をよせているのには感激したしだいです。

浸透している三池の闘い

私たち三名は微力ですが全力をあげて説明していますが、三池の闘いが以外に深く浸透しているのには驚くと同時に、資本主義下で闘う労働者は闘いのたびごとに一喜一憂することなく、一つひとつの闘いを反省し、それを基礎としてつぎの闘いをいかに有利に闘うかそれが労働者の幸福への一歩々々と近ずくものであると、いまさら強くかみしめているしだいです。

三池の同志の皆さん、私たち三名は元気で報告し、訴えると同時に勉強していますが、いまころ三池では組織対策など大変なことだと思います。

さきごろ三池を訪れた中国総工会李副主席はつぎのようにいわれました。

分裂は資本家が行なうものである。労働者が労働者を裏切ることは、自分を裏切ることである。中国にも第二組合ができたが、ごらんなさい今はありません。それは、第二組合が正しくなかったからです。三池の皆さん、自信をもって正しい労働者の道を歩きなさい。中国は全力をあげて支援します。

と、広州でしみじみと激励してくれました。

〝奉天〟がんばれ
主婦たちが店の手伝い

地域ではいまお互いが助け合い手をとり合って困難をのりこえ、会社の攻撃に抵抗をつづけているが停年退職をした一組合員に主婦たちが暖い手をさしのべ、助け合っている話がある。

織田伝治さんは元本所の組合員として、三池闘争にともにスクラムを組んできた仲間である。職場は水道課だった。

一昨年の十一月ごろ、会社が希望退職を募っていたときに、課長から退職金がこれだけあるがどうかと手紙を受けたこともあるがこれをはねつけて戦列に入った人である。職場にあっても積極的に組合活動に協力していた。また、奥さんのフミエさんも地域では主婦会の役員として活躍し、会社の弾圧がはげしかった脱落協結成にも進んで活動した人である。

闘争に入って二カ月後に停年となり退職、今は息子の衛企さんが同じ本所支部の電気で父親の分まで働いている。

失業保険が切れ何かやらなければ生活も脅かされるのでいろいろ思い立った。一時は屋台でもと手を出したが、元来体がそう頑丈でないため諦めた。

この間、地域の組合員、主婦も自分のことのように心配していろいろ奔走してくれ、このほど、上官町の宇宙館前のパチンコ屋の横に〝ぎょうざ〟店をひらいたのである。

屋号も「奉天」として第二の人生の出発をしたが、二月二十五日に開店するまで、地域の主婦たちが店の掃除から飾りつけまで応援にかけつけてくれたし、また開店後も馴れるまでは入れ替り立ち替り自分たちもぎょうざ作りまでして応援してくれた。

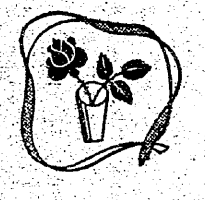
開店後まだ日が浅いが、話をきいて富浦や本所の組合員も近所を通ると必ずよってくれ激励している去る七日の決起大会でも、帰りに主婦たちが顔をみせてくれたという。

こうしてみんなが織田さんに暖い支援をおくっている。

フミエさんの話　忙がしいときはいつでも電話してくれと地域の人がいってくれます。今く頭が下がるばかりです。いつまでもあまえてはいけないと思い断ってもきてくれます、ほんとにお礼の申しようもありません。

織田さん（左）と応援する主婦

〈私たちの本だな〉（5）
人間の歴史
何が人間の姿かを探る



大きな進歩の流れを、わたくしたちにすこしもみせてくれなかった。わたしたちは日本人として、世界史の進歩の流れからこの日本をながめて、どうすれば日本が繁りをもって、世界の進歩といっしょにあゆんでゆかれるかを、まじめに考えなおさねばならない。

……過去の歴史を、人間を中心として、新しい目でみなおし、新しい立場で考えなおすこと、……人間はどのように生きてきたか、人間はどのように生きてきたか、人間はどのように助けあってきたか、人間はどのように生きたのしんだか、みんなが幸福に生きるために、人間はどのような社会をつくろうとしたか……この生きた姿のなかからわたくしたちは、人間としてのあたたかみや、人間が人間をいたわるという精神、つまりヒューマニズムの根源がどこにあるか、さらに、なにがいったい人間のほんとうの姿であるかを考えて、それを土台として、これからの道をさぐりだしたいのである……と。

人類五十万年の生活の集積のなかからその道をさぐろうとする著者の歴史にたいする態度は立派だと思います。

一食と性の発端　―日本人の起源―　女の全盛時代　の三巻にまとめられているこの本は、同じ著者が一九五一年（S26年）から一九五七年（S32年）にかけてだした「人間の歴史」六巻をこんどあたらしくかきなおして三巻にまとめたものです。著者はベストセラーとして広い層の人びとによまれた前著をかきなおすにあたって工員や農民など、たくさんの労働者の前著にたいする意見を参考にしたといっています。そうした著者の態度だけでもわかるように、この人間の歴史は苦しみを耐えぬいてきた人間の歴史をうけつぎ、いま正しい労働者として明日への歴史の道をきずいている私たちにとって、きわめて貴重なものでありひろく一読をすすめたい本です。

人間の歴史　三巻
安田徳太郎著
カツパ・ブックス各巻一五〇円

守る会と懇談
大阪の仲間から

拝啓　皆さま方にはご壮健でご奮闘のことと思います。

私も当所に入所いらい、元気で若い者に負けないためにがんばっております。家族も三月に入ったら当地に移住させる予定です。当所は学校さながらです。机に向って先生から講義を教わるときも、一年生のように起立、礼から始められます。その他は兵隊生活のようです。

荒尾の平和闘争は本当に残念でした。離れている私たちでも飯がいけないようでしたので、現地で指導されている皆さんたちの心境は如何ばかりだったでしょう。本当にご苦労様でした。

つきにはまた、責任追及の闘いとなることと思いますが、どうかがんばって下さい。私たちも当地「三池を守る会」と連絡を十分にして、支援体制を強化して行くことです。昨夕も大阪地本で守る会と座談会をひらき、こんどの活動方針について話し合いました。とくに法廷闘争にたいする支援と、三月闘争についてこんど守る会会員と会って話して行くことにしております。次回は三月四日ですが、なにぶん支部、本部と機関紙及び資料の送付方をご迷惑ですが「みいけ」及び一月以降の何か資料（外部得意用）等がありましたら送付していただくようお願いします。

末次

駅長と集団交渉

六日午後四時半から大地評では大牟田駅前で「運賃値上げ反対、ダイヤ改正要求」の通勤者抗議集会を三〇〇名が参加してひらいた。大会は各単組、事務局、通勤者代表が駅長に抗議文を手渡し、集団交渉をし、運賃値上げとダイヤ改正について強い抗議を行った。